

平成19年4月1日～平成20年3月31日

株主のみなさまへ



森のちからを、未来のちからに。

本社：東京都千代田区丸の内一丁目8番1号(丸の内トラストタワーN館)
ホームページアドレス <http://sfc.jp/>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(郵便物送付先)	東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	(1) 定時株主総会 毎年3月31日 (2) 期末配当金 毎年3月31日 (3) 中間配当金 毎年9月30日	(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
定時株主総会	毎年6月開催	(インターネット ホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/ service/daiko/index.html
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社	同取次所	住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部	公告の方法	電子公告により行います。(公告掲載アドレス http://sfc.jp/) ただし事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
		会計監査人	東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 新日本監査法人
		上場証券取引所	東京証券取引所第一部 大阪証券取引所第一部

表紙説明



「きこりん」と鷹

シンボルキャラクターのきこりんが自社林に生息する鷹とともに大空を飛んでいます。当社グループも、昨年発表した「長期経営計画 PROJECT SPEED」に沿って飛躍してまいります。



特集 住友林業の60年



地球環境に配慮した大豆油
インキを使用しています





住友林業の60年

住友林業の創業の原点は、19世紀の終盤に別子銅山開坑による山林の荒廃に対して「大造林計画」を始めたことにありますが、1948年に財閥解体を経て正式に「設立」となりました。

ここでは、①木材・建材事業、②海外展開、③住宅事業、④環境への取り組み、⑤経営計画において象徴的な事柄をとりあげることにより、住友林業の60年にわたる発展を紹介します。

2007

長期経営計画

「PROJECT SPEED」策定

長期経営計画「PROJECT SPEED」は、当社グループの10年後の目標と、それを実現するためのロードマップをまとめた事業構想です。「社員の意識改革」と「新たな収益事業の創出」を柱に、社会に有用な企業として10年後に世界でもトップクラスの企業品質を備えた企業となることをめざします。



1980

1990 東京証券取引所第一部に株式を上場

1991

インドネシア・東カリマンタン州で「熱帯林再生プロジェクト」を開始

当社は地球環境維持への取り組みを最重要課題として位置づけています。一例としてインドネシアの東カリマンタン州スブル地区においては、違法伐採や山火事などで荒廃した熱帯林に在来樹種などを植え、森の再生を図る「熱帯林再生プロジェクト」を開始しました。2004年の完了までの13年間で、同プロジェクトによる累積植栽面積は503haにおよび、オランウータンが戻ってくるなど生態系の改善にも貢献しています。

1990

1995 木造注文住宅年間販売棟数10,000棟を達成

2003 アメリカ・シアトルにおいて分譲住宅の販売を開始

2008



1691 住友家の別子銅山開坑にともない、周辺山林の立木利用を開始(創業)

1940

1948

住友林業(株)設立

1950



1961 シアトルに駐在員事務所開設

1970

インドネシアに現地企業との合弁会社KTI社設立

海外での事業展開が進むなかで、当社は1970年、インドネシアの東カリマンタン州スブル地区の開発を目的に現地企業カルティメックス社と合弁会社(KTI社: PT. Kutai Timber Indonesia)を設立しました。

1970

1975

木造注文住宅事業を開始

当社は設立以降、木材・建材を中心に事業展開してきましたが、1964年、安心・安全な木造住宅を社会に提供したい、という高邁な志のもと、新事業である木造注文住宅事業に進出しました。1970年には、東京・大阪に不動産事業部を設置し、その後もモデルハウスの拡充や住宅建築工法の研究開発に取り組み、1975年から本格的な木造戸建注文住宅事業に乗り出しました。

1984 ニュージーランドの合弁会社「ネルソン・パイン・インダストリーズ(NPIL)社」でMDF製造を本格稼働



1956

木材輸入に着手

住友林業設立時は取り扱い商品の多くは国内材が中心でしたが、1950年の貿易自由化を契機として、南洋材の取り扱いを開始しました。1955年にフィリピン材の取り扱いを皮切りに、マレーシア、インドネシアと事業展開を図っていきました。1958年には米材やニュージーランド材の取り扱いを開始しました。



当期は経済への先行き不安感に加え、改正建築基準法の施行の影響により、非常に厳しい事業環境にありました。今後も環境改善には時間を要すると見られますが、長期経営計画・PROJECT SPEEDを着実に実行することで、収益性を高め、企業価値の向上を図ります。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、ここに当社第68期(2007年4月1日から2008年3月31日まで)のご報告を申し上げます。

当期の業績

当期のわが国経済は、概ね回復傾向にありましたが、原材料価格の高騰や米国経済の減速等により、期の終わりに近づくにつれ、景気回復を牽引してきた企業部門では収益力に驕りが生じた一方、家計部門では一年を通じて回復を実感できない状態が続きました。

住宅業界におきましては、日本経済全体の先行き不安感及び賃金の伸び悩みが、相次ぐ生活必需品の値上げなどと相俟って、消費マインドを落ち込ませたこと等により、住宅への投資動機が減少し、改正建築基準法の施行による影響が加わった結果、新設住宅着工戸数は103万6千戸(前期比19.4%減)となり、当社住宅事業と関連の深い持家の着工戸数は31万2千戸(同12.3%減)となりました。

木材・建材業界におきましては、前期の好況による資材供給の増加に対し、住宅着工戸数の減少に伴う需要の縮小から、価格の下落率が大きかった合板をはじめ、木材・建材全般の市況が悪化し、市場環境は非常に厳しいものとなりました。

このような事業環境のもと、当社グループは、真に「社会に有用な企業」となること、優れた「企業品質」を備えた企業となることを目的として、当期に「長期経営計画・PROJECT SPEED(プロジェクト スピード)」を策定しました。本計画では、コア事業である「木材建材の流通及び製造事業」「新築注文住宅事業」の更なるシェア拡大及び収益基盤強化を図り、加えて「海外事業」「不動産事業」「リフォーム事業」を重点育成事業として、コア事業とともに将来の事業収益の柱と位置付け、積極的かつ効率的に経営資源を投入することとしました。

当期は、PROJECT SPEED達成のための第一歩として、当社グループの既存事業領域の収益性向上と相乗効果の最大化を目的とした組織改正を行い、事業本部ごとに策定した基本計画に則り、新たな経営指標を設けた上で、積極的に投融資を行いました。

次期の見通し

今後の経済動向につきましては、引き続き高止まる原材料価格に加え、サブプライム住宅ローン問題の影響による米国をはじめとする世界景気の減速感のなか、日本経済は下振れ圧力が強まると推測されます。

住宅業界におきましては、伸び悩む賃金を背景とした消費意欲の停滞により需要の減少が予想され、新設住宅着工戸数の本格的な回復には、なお時間を要すると見えています。木材・建材業界におきましては、住宅市場の中長期的な縮小傾向と資材需要の鈍化を背景として、再編が一段と加速すると推測されます。

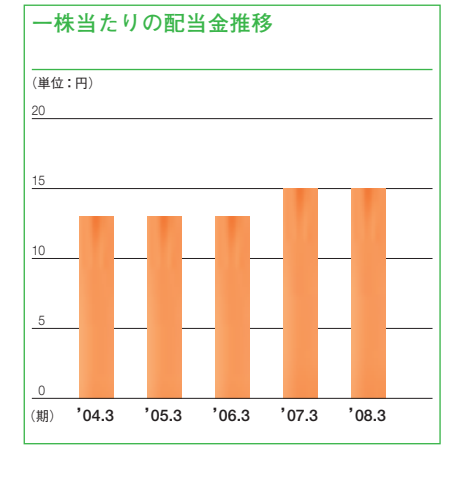
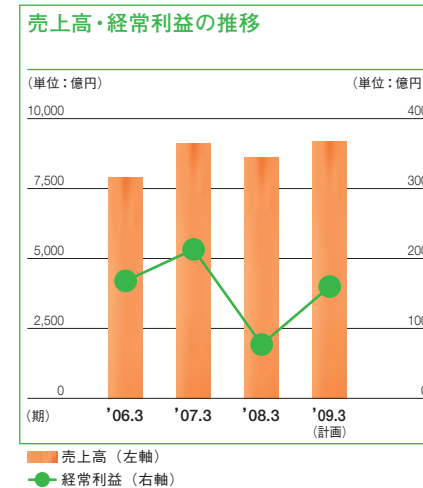
このような厳しい事業環境のもと、当社グループは、長期経営計画・PROJECT SPEED達成に向け、新規事業展開や投融資活動などにより、積極的な事業拡大に努める一方、徹底した合理化、効率化を図るとともに、経費配分の最適化を図ることにより、生産性向上を追求してまいります。今後の収益の柱となるべき重点育成事業には、引き続き人材や資金などの経営資源を積極的に投入するとともに、M&Aや他社との業務提携も含めた事業戦

略を展開することで、規模の拡大と収益性の向上を目指します。

当社グループは、企業集団としての存在意義を高めるため、企業が社会において果たすべき責任を重く受け止め、株主・従業員・取引先・市民団体・地域社会等、当社グループを取り巻く多様なステイクホルダーとの良好な関係の構築を念頭に、常にステイクホルダーへの説明責任を意識し、経営の効率性を高め、事業に関連する諸リスクを適切に管理する体制を整え、経営資源の運用効率の最大化に努めてまいります。このような取り組みにより、経営の質を高め、継続的に事業収益の拡大と企業価値・株主価値の向上を図り、同時に事業を通じての社会貢献を果たしてまいります。

住友林業株式会社
取締役社長

矢野 龍



2007.

2008.



JULY

07月

大都市圏でマンションリフォーム事業に本格参入

リフォーム専門会社である住友林業ホームテック(株)はマンション専用商品「Ma:Ri」を発売しました。基本工事部分は「定価制」を導入しつつ、木質感にこだわった部材と高い設計提案力を特長としています。

リフォーム事業は長期経営計画における重点育成事業の一つとして、耐震技術「スミリンREP(レップ)工法」など独自の技術力を活かした築100年以上の旧家の伝統を守る事業から、マンションのリフォームまで幅広い事業の拡大を図っています。



OCTOBER

10月

世界初。木材製品の科学的なトレーサビリティ

世界初となるDNAによる個体識別技術の完成により、持続的に管理されている人工林を構成する同一品種の植林木について、その苗から成木、木材製品に至るまでの履歴を証明できる基礎技術を開発しました。

木材の合法性に対する関心が高まる中、この技術によって木材製品の材料である原木の履歴が確認でき、合法性を科学的に証明することができます。さらに優良樹種の開発・植林事業・合法性証明を一体としたビジネス展開も期待されます。



JANUARY

01月

「MyForest-大樹」新発売

会社設立60周年を記念し、当社グループの環境配慮技術を結集した「MyForest-大樹(マイフォレスト-たいじゅ)」を発売しました。自然の恵みを利用して夏の暑さや冬の寒さを和らげる「涼温房」設計に加えて、国産杉を使った内装の提案や主要構造材での国産檜100%使用を実現しました。環境負荷を最小限に抑える住宅へのニーズが高まる中、「快適な住まい心地」と「環境配慮」を兼ね備えた資産価値の高い「住友林業の家」を提供していきます。



FEBRUARY

02月

「住宅関連産業中小企業事業継続ファンド」への出資

後継者不在などの事業承継問題を抱える住宅関連産業に属する中小企業の事業継続支援を目的とする「住宅関連産業中小企業事業継続ファンド投資事業有限責任組合」に20億円を出資しました。

後継者問題を抱える住宅関連産業の中小企業に対して、資金面での支援と同時に後継者問題の解決や新規事業展開など当社のネットワークとノウハウを活用した経営支援を行います。



MARCH

03月

KTIの新規事業として新設パーティクルボード工場操業

インドネシアにある木質建材製造会社 KTI(PT. Kutai Timber Indonesia)において、パーティクルボード(PB)製造工場の操業を開始しました。PBは合板工場や製材工場などから排出される廃材や小径枝材などを有効活用できる環境に優しい木質パネルで、今後インドネシア国内での需要増が見込まれています。

当社は今後も海外での製造事業や住宅事業を、重点育成事業の一つとして拡大していきます。



MARCH

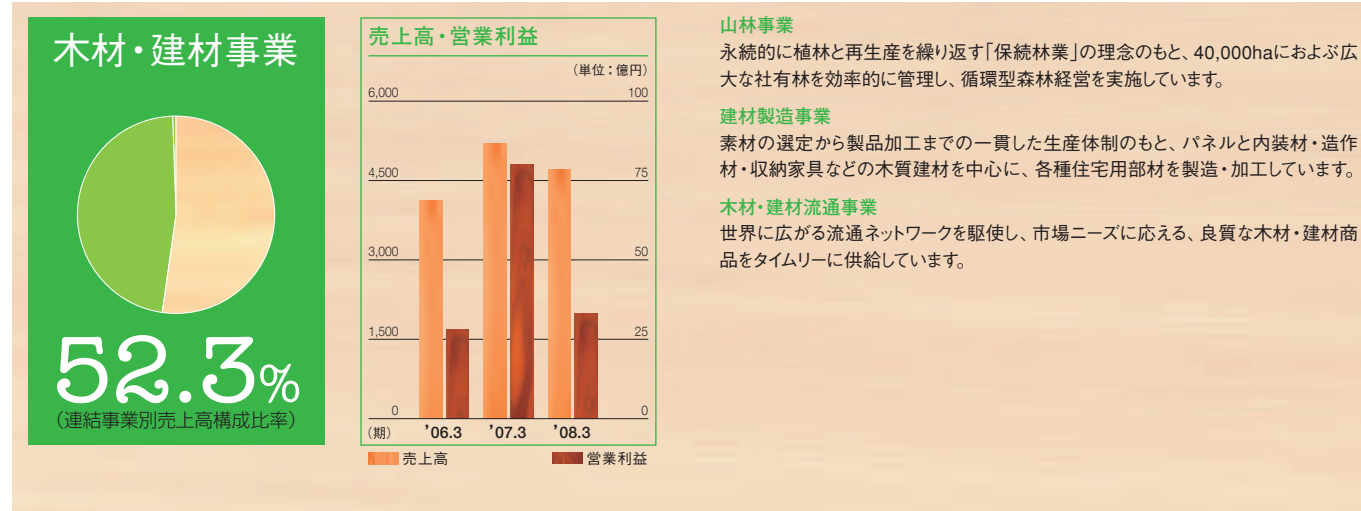
03月

しずおか葵の森プロジェクト

グループ会社の静岡工場跡地を利用した複合型居住エリア開発事業「しずおか 葵の森プロジェクト」において、介護付き有料老人ホーム「ザ・ホームしずおか葵の森」が竣工、2008年4月よりオープンしました。

当事業は当社の不動産事業において初となる大規模開発で、既にオープンしているスポーツジムや今回の有料老人ホームに加え、ファミリー向け賃貸マンションや高齢者向け賃貸住宅などを建設する総合開発です。

セグメント別事業概要



木材・建材の流通事業におきましては、資材需要の鈍化による供給過剰から、需給のバランスが崩れ、販売価格及び数量が低下したことにより、業績は厳しい結果となりました。

この厳しい事業環境のもと、業界トップシェアを磐石なものとするため、住宅関連産業が直面する諸問題を解決することを目的として、独立行政法人中小企業基盤整備機構の制度を利用した「住宅関連産業中小企業事業継続ファンド」を積極的に推進、出資するなど、新たな仕組みづくりに取り組みました。加えて、取引先を支援する様々な提案を行うことで、さらなる信頼関係の強化に努めました。

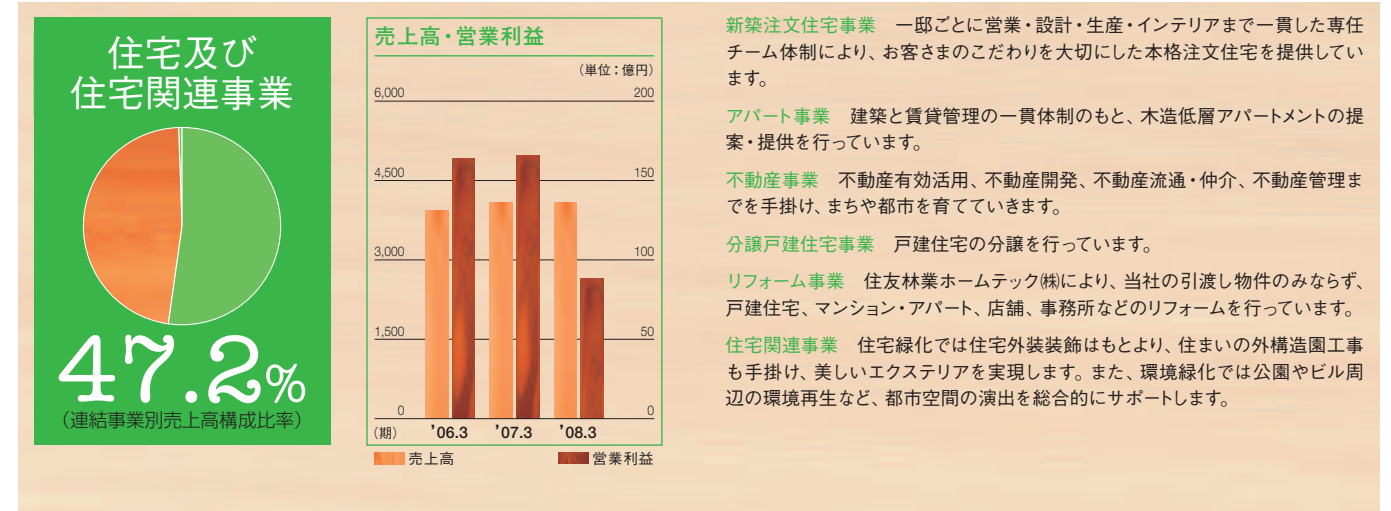
国内及び海外で展開する建材製造事業におきましては、原材料価格や輸送コストが高騰するなか、国内市場の需要減少により売上が伸び悩み、総じて業績は低調に推移しました。

国内におきましては、生産性の向上に努め、システムの新規導入による納期管理の徹底及び欠品ゼロ体制確立への取り組みを進めるとともに、設備更新による歩留り率向上を達成しま

した。海外におきましては、オーストラリアとニュージーランドにおけるMDF製造事業が好調に推移しました。また、インドネシアでは合板製造事業を行う子会社において、パーティクルボード製造工場が完成し、生産を開始しました。

当社グループでは、本事業において、植林木や端材などを原材料として積極的に使用しており、その比率向上に努めることで、環境への配慮を実践しています。

山林事業におきましては、引き続き長期的な視点に立った森林施業計画のもと、環境に配慮した持続的な山林経営を行っています。近年、国産材の需要が増し、木材自給率が回復傾向にあるなか、当社グループは国産材需要の増加を見据え、取扱量を拡大し、市場を活性化させるとともに社有林を拡充して社有資源の充実を図りました。当期は、技術の承継や収益性の向上などを目的として、高知県において山林を購入し、前期に引き続き「小面積皆伐」を実施しました。



木造軸組工法による新築注文住宅事業におきましては、当社の主力商品である「MyForest(マイフォレスト)」を基本として、当社独自の木材調達ネットワークを活用し、北米産ブラックチェリーを内装材に活かしたスーパーナチュラルシリーズの「MyForest-Super Natural Cherry(スーパーナチュラル チェリー)」、シンプルな設計により、育児のための動きやすい家事動線とやすらげる空間を、100の基本プランで表現した「MyForest-MiQUO(ミクオ)」、太陽光発電システムとオール電化設備を標準装備した「MyForest-Solabo(ソラボ)」、会社設立60周年記念商品として、主要構造材における国産材比率100%を実現した「MyForest-大樹」を発売するなど、自然環境と住環境に一段と配慮した商品のバリエーションを拡充しました。

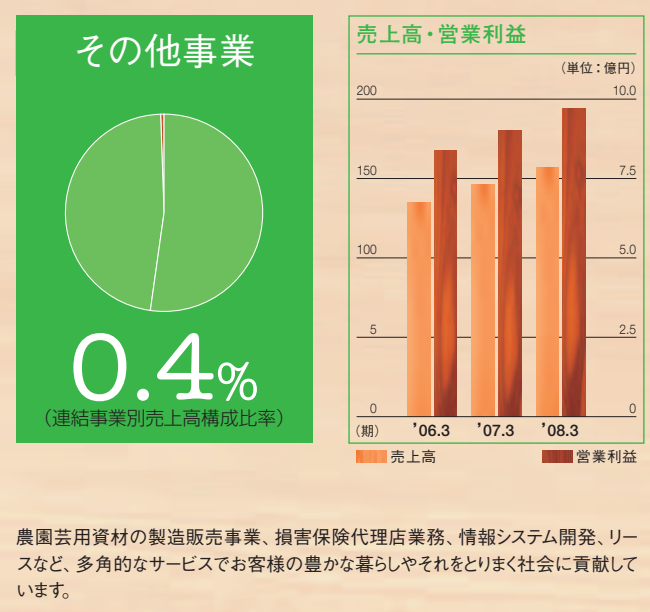
ツーバイフォー工法による新築住宅事業におきましては、国内では、中高級仕様商品を軸とした戦略を展開しました。海外では、米国、中国及び韓国で、現地企業との合弁により、国内で蓄積した当社グループの技術などを活かした住宅事業を行っています。

アパート事業におきましては、当期より住宅事業本部の一組織として、効率的な事業体制の構築を図り、受注拡大に注力しました。

不動産事業におきましては、土地を購入してマンションの分譲販売及び賃貸などを行う不動産開発事業を強化しました。当期は、横浜市、愛知県岡崎市ほかで分譲マンション事業に着手しました。また、当社を代表とする企業グループが、名古屋港の管理組合から、民間資金を活用して公共施設整備を行う手法であるPFI(Private Finance Initiative)方式によって、本庁舎等整備事業に関する建物の建設、管理などを請負いました。

分譲戸建住宅事業におきましては、期中に神奈川県秦野市、名古屋市など8箇所で開催し、着実に事業を拡大しています。リフォーム事業におきましては、現場見学会などのイベントを定期的に開催し、中大型物件の需要取り込みに注力しました。

また、高い技術力を基礎に、耐震リフォーム技術「スマリンREP(レップ)工法」の一部である「門型フレーム耐力壁」及び「ガラスブロック耐力壁」の2つが、財団法人日本建築防災協会の技術評価を取得しました。このほか、マンション向けの専用商品「Ma:Ri(マリ)」を発売し、販売拡大に取り組みました。



当社グループは、グループ内各社を対象とした情報システム開発、リース業、住宅顧客等を対象とする損害保険代理店業務等の各種サービス事業、農園芸用資材の製造販売事業等を行っています。



土太郎
スマリン農産工業(株)が独自のバイオ技術で浄水場発生残土を再利用した培養土。

「株主・投資家の皆様へ」ページをリニューアル



株主・投資家の皆様に当社グループへの理解をより深めて頂くために、当社ホームページの株主・投資家向けページ(IRページ)をリニューアルします。業績・財務内容の推移や会社概要等に加え、長期経営計画など新たな情報を充実させました。またコンテンツの充実とともに、株主・投資家の皆様にとって有用な情報が見易い構成にしました。

以下のURLもしくは住友林業ホームページの右下にある「株主・投資家の皆様へ」から閲覧頂き、投資の参考情報としてお使い下さい。

<http://sfc.jp/information/ir/>

トピックス



課題を組み立てる池田選手



第三十九回
技能五輪国際大会
建築大工職種で
銀メダル受賞!
住友林業
ホームエンジニアリング
池田通憲選手

2007年11月に静岡県で「第39回技能五輪国際大会」が開催され、「住友林業の家」の施工・監理を行う住友林業ホームエンジニアリング(株)の池田通憲選手が建築大工の部門に日本代表として出場し、12年ぶりのメダルとなる銀メダルを獲得しました。池田選手は2006年10月、青年技能者の技能レベルの日本一を競う「第44回技能五輪全国大会」の建築大工部門で優勝し、日本代表として本国際大会への出場を果たしました。競技は課題に基づいて原寸図を描いて墨付けし、木材を加工し組み立てて建築模型を作り上げるもので、今回は10カ国10人の代表選手が参加しました。その半数が課題を完成させることが出来ない高い難易度の中、原寸図面と作品の出来栄で高い評価を獲得しての快挙となりました。

また2008年に千葉で開催された「第45回技能五輪全国大会」においても、住友林業ホームエンジニアリングから出場した4名の社員全員が入賞(銀賞、銅賞、敢闘賞2名)し、当社グループの確かな技術力を改めて証明する結果となりました。

現在日本では大工の減少や高齢化が危惧されています。住友林業では未来の日本の家を担う大工を輩出すべく「住友林業建築技術専門学校」を設け、現在までに800名を超える技

技能五輪国際大会

技能五輪国際大会は、正式には、国際技能競技大会(World Skills Competition)と呼ばれ、参加各国における職業訓練の振興と青年技能者の国際交流、親善を目的として2年に1度(奇数年)開催されており、参加資格は22歳(一般職種は25歳)以下。今大会は、46カ国、813名の青年競技者が参加し、47の職種で世界一を目指し、競技が行われました。



住友林業ホームエンジニアリングでは年間約3,000棟の「住友林業の家」を施工

能者を育成してきました。彼らは専門学校を修了後、住友林業ホームエンジニアリングに戻って高品質な「住友林業の家」の提供を現場で支えると共に日本の技術を未来へ受け継いでいます。

「住友林業建築技術専門学校」は住友林業グループの企業内訓練校で、伝統的な木造軸組工法の承継から最新技術を取り入れた木造住宅施工まで木造建築の建設に必要な基本知識と技能を備えた技能者を育成・輩出しています。

連結財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)	前期	当期
資産の部		
流動資産	337,072	297,014
固定資産	163,064	153,715
有形固定資産	74,050	79,921
無形固定資産	6,313	6,423
投資その他の資産	82,700	67,371
資産合計	500,136	450,730
負債の部		
流動負債	260,619	232,858
固定負債	50,662	44,784
負債合計	311,281	277,641
純資産の部		
株主資本	163,288	161,497
評価・換算差額等	24,441	11,422
少数株主持分	1,125	169
純資産合計	188,855	173,089
負債及び純資産合計	500,136	450,730

流動資産

2,970 億円

木材・建材流通事業の減収に伴い受取手形、売掛金等の売上債権が大幅に減少したため、全体で前期比401億円減少しました。

固定資産

1,537 億円

木質建材製造事業において工場設備投資がありました。株式市場の低迷に伴う保有株式の時価下落及び減損処理実施の影響が大きくなり、全体では前期比93億円減少しました。

流動負債・固定負債

2,776 億円

木材・建材流通事業の減収に伴い支払手形、買掛金の仕入債務が大幅に減少した他、保有株式の時価下落により繰延税金負債が減少しました。その結果、全体では前期比336億円減少しました。

損益計算書

(単位:百万円)	前期	当期
売上高	911,674	861,357
売上高	545,735	496,478
完成工事高	365,940	364,878
売上原価	770,558	726,080
売上原価	504,152	456,481
完成工事原価	266,405	269,599
売上総利益	141,117	135,277
販売費及び一般管理費	120,711	128,041
営業利益	20,405	7,235
営業外収益	4,026	3,728
営業外費用	3,172	3,305
経常利益	21,259	7,659
特別利益	969	2,401
特別損失	1,539	4,459
税金等調整前当期純利益	20,689	5,601
法人税、住民税及び事業税	5,381	5,156
法人税等調整額	3,180	△ 661
少数株主利益	174	△ 8
当期純利益	11,954	1,115

売上高

8,614 億円

新築注文住宅事業においては前期並の売上高水準を確保しましたが、木材建材流通事業において住宅着工数減少の影響から厳しい市場環境となり、大幅減収となりました。その結果、全体では前期比503億円減少しました。

販売費及び一般管理費

1,280 億円

全社的には経費削減を進めましたが、株式市場の低迷により退職給付債務等にかかる数理計算上の差異が大幅な経費増加要因となり、全体では前期比73億円増加しました。

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)	前期	当期
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,084	26,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,102	△ 17,587
財務活動によるキャッシュ・フロー	665	△ 4,262
現金及び現金同等物の期末残高	50,311	54,475

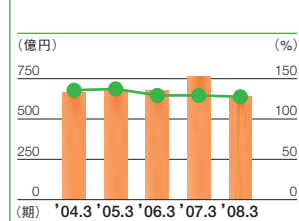
一株当たり情報

(単位:円)	前期	当期
一株当たり当期純利益	67.43	6.29
一株当たり純資産	1,059.20	975.99
一株当たり配当金	15.0	15.0

株主資本等変動計算書

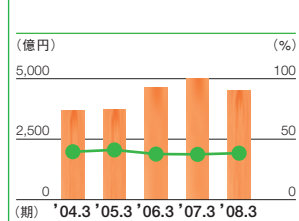
当連結会計年度 (単位:百万円)	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式		其他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定		
2007年3月31日残高	27,672	26,882	108,919	△184	163,288	22,482	155	1,804	1,125	188,855
当連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△2,835		△2,835					△2,835
当期純利益			1,115		1,115					1,115
自己株式の取得				△95	△95					△95
自己株式の処分		△6		30	24					24
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)						△13,397	△96	474	△956	△13,975
当連結会計年度中の変動額合計		△6	△1,720	△65	△1,791	△13,397	△96	474	△956	△15,766
2008年3月31日残高	27,672	26,876	107,198	△249	161,497	9,085	59	2,278	169	173,089

運転資本及び流動比率

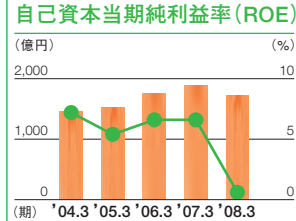


(注) 運転資本 = 流動資産 - 流動負債
流動比率 (%) = 流動資産 ÷ 流動負債 × 100

総資産及び自己資本比率

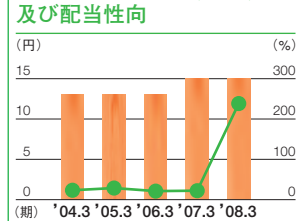


自己資本及び自己資本当期純利益率(ROE)



自己資本当期純利益率 (%)

一株当たり配当金(年間)及び配当性向



配当性向 (%)

商品ラインナップ

住友林業

MyForest



「涼温房」という設計思想で自然の力を利用して四季のある日本の気候風土にあった伝統的な住まい方を最新技術で実現。主要構造材には国産檜を採用し、木質感あふれる外装や内装空間など上質な暮らしを提案。

パンフレットのご請求先：
フリーダイヤル ☎0120-217555
URL: <http://sfc.jp/>

MyForest 大樹



当社グループが培ってきた環境配慮の技術を結集した資産価値の高い商品。「涼温房」に加えて主要構造材は国産檜100%、内装にも国産杉を提案。外装にも環境配慮型の部材を採用しており、「快適な住まい心地」と「環境配慮」を両立。

パンフレットのご請求先：
フリーダイヤル ☎0120-666000
URL: <http://profit.sfc.co.jp/>

Succeed Harmo



豊富なプランときめ細かな提案力を備えた資産価値の高いツーバイフォー工法のアパート。敷地を最大限に有効活用しつつ建築費をおさえることで、より効率的な賃貸経営を提案。

パンフレットのご請求先：
フリーダイヤル ☎0120-666000
URL: <http://profit.sfc.co.jp/>

主要グループ各社

住友林業クレスト(株)



建具・階段・収納などの木質住宅内装部材や、国産材を積極的に活用した構造用合板などの各種合板の製造・販売。

URL: <http://www.sumirin-crest.co.jp/>

住友林業ホームサービス(株)



不動産の売買、仲介のサイト「すみナビ」

URL: <http://www.suminavi.com/>

不動産の売買・仲介に関するお問い合わせ先
TEL 03-5308-2432
URL: <http://sumirin-hs.co.jp/>

住友林業緑化(株)



住まいの造園や植栽、都市空間を演出する環境緑化など、緑のトータルプランナーとして緑ある住まいとまちをご提案。

パンフレットのご請求先：
TEL 03-6832-2205
URL: <http://www.sumirin-sfl.co.jp/>

住友林業ホームテック(株)



「旧家リフォームの施工例」木の良さを最大限に活かしながら、お客様の住まいを新鮮で機能的な住空間として蘇らせるリフォームを実践。

パンフレットのご請求先：
フリーダイヤル ☎0120-700742
URL: <http://www.sumirin-ht.co.jp/>

(株)サン・ステップ

アパート・マンションの賃貸経営と資産管理に関するお問い合わせ先
TEL 03-3350-8731
URL: <http://www.sunstep.co.jp/>

(株)フィルケア

有料老人ホームの運営。
パンフレットのご請求先：0120-54-6366
URL: <http://www.fillcare.co.jp/index.html>

役員 (平成20年6月20日現在)

取締役および監査役

*取締役社長 矢野 龍
*取締役 井上 守
*取締役 能勢 秀樹
取締役 上山 英之彦
取締役 塩崎 繁彦
取締役 早野 均
取締役 市川 晃
常任監査役(常勤) 高橋 涉一
監査役(常勤) 竹野 諭
監査役 三木 博
監査役 佐々木 恵彦

(注) *は代表取締役

執行役員

執行役員社長 矢野 龍
専務執行役員 井上 守
専務執行役員 能勢 秀樹
常務執行役員 上山 英之彦
常務執行役員 塩崎 繁彦
常務執行役員 早野 均
常務執行役員 市川 晃
執行役員 西村 政廣
執行役員 豊田 丈輔
執行役員 高田 幸治
執行役員 渡部 日出雄
執行役員 山本 泰之
執行役員 倉光 二郎
執行役員 笹部 茂賢
執行役員 和田 賢一
執行役員 高野 誠一

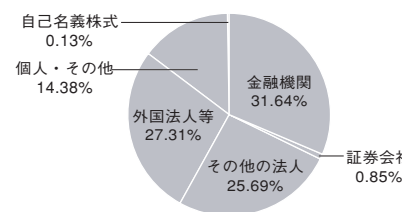


(前列左から) 取締役社長 矢野 龍、取締役 井上 守、取締役 能勢秀樹
(後列左から) 取締役 早野 均、取締役 市川 晃、取締役 塩崎繁彦、取締役 上山英之

株式情報 (平成20年3月31日現在)

上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部
発行済株式総数	177,410,239株
株主数	12,903名
外国人持株比率	27.31%

株主分布 (所有者別)



会社の概要 (平成20年3月31日現在)

創業	元禄4年(1691年)
設立	昭和23年2月20日
資本金	27,672,051,210円

事業の概要

- 木材・建材事業
国内及び海外における、山林の育成・収穫・管理業務、木材(原木・製材品・集成材・チップ等)・建材(木質加工建材・窯業建材・金属建材・住宅設備機器・合板・繊維板等)の仕入・製造・加工・販売
 - 住宅及び住宅関連事業
戸建住宅・集合住宅等の建築工事の請負・販売・アフターメンテナンス・リフォーム、集合住宅等の賃貸借・管理、不動産の売買・賃貸借の仲介、造園・緑化工事の請負、CAD・CAM業務受託、敷地調査、地盤改良工事、インテリア商品の販売
 - その他の事業
人材派遣業、ソフトウェアの開発、リース業、保険代理店業、土壌改良材・園芸用品の製造・販売、その他
- 従業員 12,541名 (グループ全体)